

小中学校・高等学校 連携推進事業

中部地区



出前授業(合唱指導):上小鶴小にて
【上小鶴小・倉吉東高】



高校生による詩の朗読、解説:大栄小にて
【大栄小・鳥取中央育英高】

中部教育局では、校種を超えた相互理解、指導の連携を目的に、小中学校と高等学校の連携推進事業に取り組んでいます。小中学校からの交流希望に高等学校が応える形でスタートし、5年目を迎えた今年度は46事業が実施されました。小中学生の高校へのあこがれや関心の高まり、高校生が人の役に立っていることを実感するなど様々な成果がみられています。

高校の授業体験と 高校生との交流会

中学校では…

高校での授業体験、出前授業、高校の生徒会運営を学ぶ等、多くの中学校で授業を中心とした高校生との交流が活発に行われています。

専門性の高い理科と英語の授業を体験したあと、高校生から学習や生活、部活動、受験体験など、いろいろな話を聞きました。高校生は、中学生に伝わるように誠実に答えていました。(倉吉西高にて)



【久米中・倉吉西高】



米づくり指導交流:倉吉農業高の実習田にて
【社小・倉吉農業高】



高校生による調理実習指導:倉吉総合産業高にて
【上北条小・倉吉総合産業高】

中学生の感想

● 高校の授業は、難しく楽しくないイメージでしたが、笑いがあがり板書も見やすく分かりやすい授業でした。高校のことがよくわかって本当によかったです。

● 受験勉強や高校生活に不安があったけど、先輩から、一度にやろうとせずコツコツしたほうが良いと聞いてやる気が出てきました。

問合せ先 県教委中部教育局 電話:0858(23)3252

人権教育実践協力校の紹介

最高! つながり合う仲間!!

~米子市立福米西小学校の取組「語り合いの学習」~



学級通信より

自分を変えたい、変わりたいという思いの子が、何人もまっすぐ手を挙げます。指先にまで、気持ちがこもっています。マイクを持つ手が震えた子もありました。途中で、涙する子もいました。そして、そんな友達を笑うことなく真剣に聞いているたくさんの仲間がいました。その仲間がいたからこそ、勇気を持てたのだと思います。子どもたちのことが、めちゃめちゃかっこよく、そして、誇らしく思えました。

児童の感想

ぼくは語り合いの学習をして、なみだを流して語り合える仲間になっていきたいと思いました。ぼくの他にも泣いている人がいたけど、本気で自分のことを語っていた証だと思いました。6年生はあと少しなので、本気で自分のことを話そうと思っています。



鳥取県では人権教育を、教育活動全体を通じて推進するものとして位置づけ、様々な学習を行っています。今回は、想像力や感受性、コミュニケーション能力など、子どもの人権感覚を育む米子市立福米西小学校の「語り合いの学習」を紹介します。

福米西小学校の6年生は、「つながり合う仲間」をテーマに人権感覚を磨く視点から総合的な学習の時間に取り組んでいます。「語り合いの学習」は、その一環として行いました。学習は、学年全体(3学級)で行われ、子どもたちは、語り合いによって自分の弱い部分にも正面から向き合い、ありのままの気持ちを友達に伝えていきました。そのことによって、友達の思いを自分のこととして考えたとき、心がつながり、自分が変わっていくことに気づいていきました。

胸を張って自分自身のことを語る子、言葉につまりながらも自分の悲しみを語る子…。緊張しながらも飾らない言葉で一生涯懸命に思いを伝えようとする子の姿が見られました。語りが語りを生んでいき、一番わかってほしいことが語り合える雰囲気、子どもたちが創り上げました。子どもたちの人権感覚の育ちと、「つながり合う仲間」としての成長を実感できた学習でした。

問合せ先 県教委人権教育課 電話:0857(26)7535

お子さまの育ちについて 悩みを抱えておられるみなさんへ



子どもの発達や心(不登校など)の問題について、不安や悩みを感じていませんか?
「子どもが学校に行きたがらないけど、どうしたらよいだろう。」「うちの子はふさぎ込んで部屋の中に閉じこもりがちだ。」
「我が子の育ちは、同年齢の子どもたちと比べて、ゆっくりじゃないだろうか。」
鳥取県内には、みなさんが子育ての中で感じられている悩みなどについて、いっしょに考えたり、解決に向けた様々な活動が体験できる、「子育て相談窓口」があります。一人で悩まず、ぜひ、御相談ください。

社団法人ハーモニカレッジ

住所/鳥取市越路大谷752-1空山ポニー牧場 電話/0858-72-2468

一癒しの牧場へようこそ—

水平線と鳥取市が一望できる緑に囲まれた空山ポニー牧場で、不登校やひきこもりの児童生徒やその保護者を対象に、一人一人のペースに合わせた「馬とのふれあい」「乗馬、世話など」のプログラムを体験することができます。いろいろな悩みを相談しながら解決していけたらと思います。

ADHD/ADD(注意欠陥多動性障害) 当事者と仲間の会

住所/米子市内町122(障害者生活支援センターまちくら) 電話/0859-35-5647

発達障がいが見えない分かりにくい障がいです。多動、指示が伝わりにくい、会話が一方的でかみ合わない、予定が変わるとひどく混乱するなど…。このような障がいがある当事者やその仲間の会です。発達障がいに係る悩みや相談を聞いています。

※詳しくは上記の電話番号へお問い合わせ下さい。

ペアレントメンター鳥取事務局

住所/鳥取市瓦町601番地(NPO法人鳥取県自閉症協会内)
電話/0857-30-0670(平日10:00~14:00)

—子育てにひとりで悩みを抱えていませんか?—

発達障がいのある子どもを育てる保護者の相談窓口です。同じ発達障がいのある子どもを育てている保護者が相談相手となって、悩みを共感したり、自分の子育て経験をとおして子どもへの関わり方などを助言したりします。まずは、気軽にご連絡ください。一緒に歩んでいきましょう。ペアレントメンターとは…よき相談相手、先輩保護者の意味です。

不登校児童生徒、ひきこもり青少年の親の会 「つながろう会」

連絡先(事務局) 渡邊奈津美 電話/090-7374-0153

不登校やひきこもりの児童生徒を持つ保護者の集まりで、お互いの持つ悩みや疑問を話し合えたらと思います。主に米子市内で月に1回の定例会を開いているので気軽に御連絡下さい。

シリーズ プロ(文化財主事)が教える文化遺産のツボ!



第2回 「若桜鬼ヶ城 ~破城ってなあに?~」

最近では歴史好きまたは歴史通の女性が「歴女」と呼ばれるなど、「歴史」とくに「戦国時代」に興味を持つ方が増え、全国各地の城跡には多くの人々が訪れています。お城の石垣は見所のひとつですが、長い年月を経たせいか、ところどころに崩れた場所を見かけます。しかし、それは本当に自然に崩れたものなのでしょうか?
八頭郡若桜町にある「若桜鬼ヶ城」は、町の中心部から南側にそびえる鶴尾山(標高452m)に戦国時代の終わりから江戸時代のはじめごろに造られた貴重なお城のひとつとして、平成20年3月に国の史跡に指定されました。山頂には石垣で囲むことによって守られた郭と呼ばれる平らな場所や、天守閣が建てられていた跡が残っています。この城は羽柴(後には豊臣)秀吉が鳥取城を攻め落とした後、その家来である木下重堅、続いて山崎家盛によって、それまでの小さな山城を改造して築かれました。やがて江戸時代となり、鳥取藩に池田氏が入ると「一国一城令」によって若桜鬼ヶ城は取り壊されます。今、山頂の郭を訪れると石垣から崩れ落ちた石がいくつも散らばり、あちこちの石垣には大きく崩れた場所が目立ちます。これらは自然に崩れただけでなく、天守閣などの建物といっしょに人の手によってわざと壊された跡なのです①。これは「もう若桜鬼ヶ城を「戦さ」のために使わない!」ということを示すために、「破城」と呼ばれる戦国時代以来の決まりごとが行われた証と考えられます。このような跡がよくわかる城は県内でもここ、鬼ヶ城だけです。

石垣の残っているところ



東側から見た若桜鬼ヶ城跡



「破城」されたことがわかるように、よく見える石垣の隅を壊しているんじゃない。



②山頂の石垣(隅の石を中心に崩されています。)

①破城の様子

ただし、決まりごとといっても城を全部壊さなくても、よく見えるところの石垣を壊して「城はもう壊れて使えませんが」とみんなにわかればよいのです。城に残る石垣を見たと、ふもとから城を見上げてよく見える場所は大きく崩れていますが②、人目につかない裏側はあまり崩れていません。若桜鬼ヶ城は、江戸時代を通して存在した鳥取城や米子城とは一味違い、「戦さ」が現実のものであった時代の雰囲気や伝える古城跡なのです。鳥取県内には、こうした城跡が500以上残っています。あなたの家の近くにも城跡があるかもしれません。

鳥取県の文化財情報HP(とっとり文化財NAVI)
<http://www.pref.tottori.jp/bunka/navi>

問合せ先 県教委文化財課 電話 0857(26)7934